

世界にひろがるAMDAのネットワーク

パキスタン南部サイクロン緊急支援活動

6月下旬、パキスタン南部で暴風雨による水害が発生し、200万人近い人が被災しました。パキスタン最大の都市、カラチ市があるシンド州でも死者は約250人、25万人が住宅を失い、30万人が避難生活を余儀なくされているとの報道発表もありました。また、インフラも多大な影響を受け、停電や上下水道の停滞も発生したため、住民への負担は更に重くなりました。このような甚大な被害に際し、AMDAは調査として本部から2人の調整員を派遣いたしました。

6月30日に到着した調整員は、200人以上の死者を出したカラチ市とその周辺地域で調査を開始しました。被災地域では、幸い伝染病の流行は見られませんでした。被災住民の間では、インフラ復旧の遅れや、食料や飲料水の配給の遅れから不満が出てきているということでした。そこで、AMDAでは、被災者へ支援活動を指揮するカラチ市保健局に対して、復旧活動の促進を後押しする為に、非常灯、長靴、ガスコンロ、飲料水などの物品の寄贈を行いました。また、現地の協力団体であるハムダード財団が運営し、被災者に支援を行っている巡回薬草薬局（注1）にも寄付を行いました。ハムダード財団理事長、サディアラシード氏より「AMDAのパキスタンへの平素よりのお気遣いにご支援に心よりお礼申し上げます」というメッセージをいただきました。

今後、被災された方々がいち早く通常の生活を送れるように心よりお祈りしております。

【派遣者・派遣日】 佐伯美苗、ニティアン・ヴィー
ラヴァグ 両者とも調整員、AMDA職員
6月28日岡山出発

【派遣地】 パキスタン・イスラム共和国 カラチ市
とその周辺地域

【現地協力団体】 カラチ市保健局、ハムダード財団

注1) 現地の民間伝統医療薬を、車両に載せて市内を廻りながら、患者に薬を処方する移動薬局のこと。

